

黄金産生と時間短縮の運動は人格運動として餘りに貧弱である、支配權の獲得運動は餘りに空想であつて又權暴である。

新人の運動として絶叫せらるゝものはデモクラシーであらねばならぬ、然るに労働階級の支配權獲得の思想は半分クラシーではないか。

私は云ひ度い、労働運動は眞に人格運動であると言ふことを社會一般に知らしめたいと思ふ、大正維新の文化は労働者の力で促思され、大正年間の倫理想は労働者の實行で保持されると云ふ氣節を揚げさしめたいと思ふ、何處までも労働運動は正堂々と天下を闊歩するの氣概あらしめたい、そうして其の運動は歩一歩進歩されて行けば決して行き詰まることはあるまいと思ふ、明日から直に支配權を獲やうとするが如き夢想的運動は一朝不景氣襲來で行詰つて了ふ。

新人の方途は洋々として春海の如した、爲すべき事は決して二三の問題に止らない、國精一番、社會的位置の向上に今幾段の力を致さねばなるまい。

労働運動の途上で

過去の困難と運命に轉り紅牙盾が多いから茲に其數項を擧げて批評して見ゆ。

労働は神聖なり、労働は神聖なりといふ立派な言葉は昔から存在して居る、然れば労働者は果して社會から現代迄神聖な取扱を受けて来たか、社會は労働者に對して神聖たるべき威容を有つて接して来たか、労働者は自ら労働それ自体は神聖だが労働者の品位が悪いから其取扱をしないのだ、私は現代迄(否現代猶其威容が強い)労働は生活の手段であつて目的では無いだから何ぞかして此階級から脱出せんと思つて居る處は實に自他共に自覺して居なかつた。

労働は神聖なり、徹底したらそこに幸福な社會が建設されるのだ、過去の社會は何だ労働者のクセにぞ輕視するだから神聖といふ言葉は單に修身教習書の半頁を飾つて居るに過ぎないのである、労働は神聖なり、徹底せしめねばならぬ、そこに労働者の品位の向上が無くては時々の社會階級位置の向上は無くてはならぬ、社會の人も是に對する理解と思想の改善が無くてはならぬ。

労働と資本は車の兩輪、労働と資本とは車の兩輪といふ言葉は頗る古い事で既に誰人も周知のことであらう、然るに現代迄資本家の車の輪は頗る大にして労働者の輪は其の小きかつた教育に於て資本に於て健康に於て社會階級位置に於て總て資本家は有利の立場にあつた労働者は牛の如く馬の如く、使はれて殆ど個人間の生計をして來なかつた兩者の輪の差異は甚しかつた、故に其運行が完全に出來やう筈が無い常に生産界に在つて兩者はガタ／＼の状態で運行は頗る遅々たるものであつたのである。

資本労働者と資本家は對立であらねばならぬことを絶叫せざるを得ない絶對的對立の社會状態になつて來て始めて運行が完全に出來るのである感情に始り理性に於て社會階級位置に於て總て對立對等であらねばならぬ。